

せて、きいて居ました。が、やがて、「先生夫は何の歌でございますか」と申しますので、「これは先生にお別れいたす時の歌です」と答へますと、「毎日少しづつ、覚えませすれば、きつと出来ませうから、どうぞ教へて頂戴、それから、先生御歸國遊ばす時には、うたひます、どうぞ、其意味を翻釋して下さいます」との事で、私は閉口致しましたけれども、先二小節丈は難なく歌ひうる様になりました。

先日、東京に留學して居る暹羅の小供の刺繡や造花や圖書が参りましたので、陛下から早速當校へおもたせ下さいました。陛下も非常にお喜でございましてと申す事でございまして。貴族社會では陛下が教育に御力を注がせ玉ふ事が、一大話にありましてゐますとの事でございまして。まづ當國

の爲め大賀いたすべき事と思ひます。(下略)

十月十六日夜

## 九州地方の狀況

久保やま子

唯今迄は餘りくだらぬと存、差扣へて居りましたが、都の御方に邊陲僻地の生活の有様を申しますのも、或は御参考の一助かとも存ますから、申上ます、都と邊陲の様を比へますと、都の中以下の生活の様は田舎の上の品より上等です。御笑ひ草迄に食物の事から申上ましよう、四國西南岸の地(東南は調)是れに對する九州海岸、即ち豊後と延て日、隅、薩の一帶海濱の地は、先づ甘薯が唯一の食物です、山間に入りますと粟、玉蜀黍を用ゐます(麥は申す)調理の致し方は種々ですが、蒸し

て其儘用ゐるもあり、又日向地では皮をひき細片となし、極めて少量の米を混じり炊く、飯櫃にとる時、杓子にて練り用ゆ、一見甘薯とも見えぬ様に居ります。 (通俗ネリク) 先づ一日一人の食米は壹合内外でしよう、下の下の品になると、甘薯耳を食して居るもあり、又春の末夏始めに用ゆべく貯へるには冬の始め切干となし、或は其切干を水車にかけ粉米として貯へます、其切干のお飯などは何と名をつけてよいか、到底都會のお方々の想像だも及ばん處で御座います、斯の如き次第ですから、他府縣の農家の様に繙菜を澤山に調理致しません、極めて下等民になるとネリクリに食鹽を付着して、掌を食器に代用するのです、先づ舊八月十五夜から麥の成熟致す迄の食物です、麥が出来ますと三月計りの間は麥を用ゐます

抱腹に堪へぬ談があり、私の末子満三歳になり、或時掌を差出し是非御飯を頂戴と申すから、叱りましたらお母ちゃん、御馳走まんまは掌でたべてはわるいかと問ひました (阿々笑米飯を小兒など) 此甘薯の常食は年々歳々發達して御馳走まいと云ふ) 民家に近き丘陵は開墾されて畑となりつゝ見えません。 夫れから衣服は如何と申と、勿論綿衣ですが是れも御讀になりましたら皆様の御想像外だるふと存ます、日向地は殊更甚しう御座ます (尤も薩摩は) 皇祖基業の土地柄故にや、男女とも容貌は割合に宜敷、言語も善く判ります、暖地なれば男女とも筒袖或は廣袖の半纏を用ゐ、半身を露出したるが常です、女子は大抵三巾の前垂れを用ゐる跣足が十中の八九です、長着 (通常衣服) を用ゐてもしむきを用ゐ

帯を用ゐぬが普通です、(此頃はまゝ)かゝる有様故  
 男女とも祝儀無祝儀の節用ゆべき紋付夏冬の二着  
 と帯一つあれば、充分の衣裳持ちなので、

かゝる單純な生活で今日の暮し方に骨が折れませ  
 んから、一般に遊惰者が澤山出來ます、男女とも  
 十四五歳になると、先づ自宅に靜肅に、終夜安眠  
 する者は寡ひのです、奉公人でも同様です。尤も  
 暖地の事なれば冬日と申ても、四巾蒲團一枚あれ  
 ば充分としてあります、極下層になると一家に蒲  
 團一枚と申様なのもあるのです、着のみの儘爐邊  
 にぐる寝を致すが先づ若者の常位なのです、斯の  
 如き有様ですから節操とか道徳とか申事は御談に  
 なりません。其邊は宜しく御了察を願ふのです。  
 然し悪むべき程の事は更にない、何にも知らんで  
 すから致し方が有りませんから避地に生れ逢ふた

者こそ不憫な者で、學校と申しても形式だけ、先づ  
 尋常科は何れの教場にも赤兒が四五名位は居る有  
 様(家事の都合により子)教師か折角講義をしても、生

徒は嘯て勝手な事をして居ると申有様、尤も日  
 向全体が皆と申すでも有りませひが、先づ全國  
 で教育程度は宮崎縣が劣りて居る事は定論だそふ  
 です、其中で又私の原籍地が劣等なのです、まだ  
 此邊になりますと封建時代の風が在りまし  
 て、教員とか役員とか申と、肩で風を切り、随分  
 抱腹に堪ぬ事が有ります、たまゝ有爲の人か出  
 ると直に押し除けると申す惡弊風が有るに困りま  
 す、私が或日卒業式に招かれて參りましたが、其  
 時の校長は新任者で先づ相當人物でした、恰度昨  
 年の事で、日露戰爭の事に就き種々談して居りま  
 したが、謹聽して居るのは卒業生のみ、他の生徒

は嘯くもあれはつかみあふて居るのもある、然るに男女多くの職員は顔を揃へて居る計りで、少しも制さない對岸の火事もたゞならぬのです、局外者なる私何んとか注意を致そふかと思ふ位でありました、演説がすむ、來賓が起つ、生徒らは蜘蛛の子を散らす様に勝手に走り出すと申有様、悪口の様ですが、眞實の談、何とか此弊風を治療致す良薬もがなと、志ある者はより／＼相談も致し、青年會とか有志會とか申す組織は致して有ります、中々むづかしいものです、かゝる所に生長致す兒童の不憫さは格別なものです、上知と下愚は移らずと孔子も申されましたが、普通の者は是非郷里の悪習に染ります、私はつく／＼社會教育と申事の必要を悟りました。

(以下次號)

### 佛國婦人の夜業

佛國に於ては、近來婦人の夜業盛に行はれて將來恐るべき結果を生ぜんとする虞あり、此等の婦人は睡眠時間不足なるより、小兒の養育法不完全に陥り易し、同國にては十餘年前に、法律を以て婦人の夜間労働を禁じたるが、工業の種類に依りては例外を設けたり、然るに今は此例外頗る廣き範圍に行はるゝに至りたるなり、晝間はクレーシユ(小兒代育所)あるも、夜間は之を閉ざしあるを以て、婦人の労働中小兒は實に無慘なる状態に在るものとす、目下此労働を禁止せんがため、盛んなる運動ある由なり。

(六合雜誌)

### 會食中の談話

英國の十九世紀雜誌に於て、フレデリツキ、ハリ